

1 研究テーマ 気付きの質を高める生活科授業のあり方

2 はじめに

平成 20 年 3 月に学習指導要領が改訂された。生活科では、体験だけで終わっている学習活動や表現の出来映えのみをめざす学習活動が行われる傾向がある現状をふまえ、気付きの質を高め、活動や体験を一層充実するための学習活動へと改善していくことが示された。そこで、児童が活動や体験を通して多様なことに気付き、身に付けていくプロセスを生活科における学びであるととらえ、気付きの質を高めていくための、意図的・計画的・組織的な授業づくりについて研究することにした。

3 研究目的

気付きの質を高めていくための、意図的・計画的・組織的な授業づくりについて検証する。

<研究仮説>

ねらいを明確にして、単元を組織化し、意図的に児童に働きかければ、児童の気付きの質は高まり、物事をより深く理解したり自分自身のよさや可能性に気付いたりすることができるだろう。

4 研究内容

授業づくりの視点

(1) ねらいを明確にする

①育てたい子ども像を明確にする

「目の前にいる子どもたちの姿」と「教師が子どもたちに対して抱く成長への期待」と「生活科の目標や内容」の 3 つをすり合わせて考える。児童の思いや願いを重視するとしても、教科の目標や内容とかけ離れたものにならないように留意する必要がある。

②そのために必要な力を具体的に定める

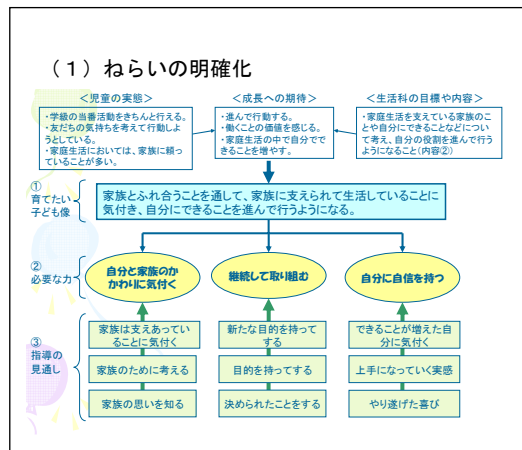
育てたい子ども像に近づけるためには、どんな力をつけていく必要があるか考えていく。活動や体験を通して獲得させたい力を明確にしておくことで、教師が活動に対する目的意識を持つことができる。学習指導要領に示されている内容の中で、何に焦点をあてて迫っていくかを、育てたい子ども像と照らし合わせて考えていく。

③その力をつけるための指導の見通しをもつ

気付きの階層を想定し、段階的にめざす姿まで高めていくよう計画を立てる。

授業の実際

『大好きな家族のために
ぼくの・わたしのできること』
生活科の内容(2)



(2) 単元を組織化する

①学習対象や学習材の選定

「児童の興味・関心」「児童が学習材とのかかわりを通して、新たな思いや願いが生まれ、高まっていく可能性のあるもの」「学習材の持つ本質に迫ることができるもの」の視点で考える。

②学習活動の組み合わせ

「直接体験」「振り返り」「伝え合い」の活動をセットにして気付きの質を高める活動と考える。自分の活動を表現したり、互いに交流したりして、そのことを振り返りとらえ直すことによって、自分なりの気付きを自覚していくことができる。

